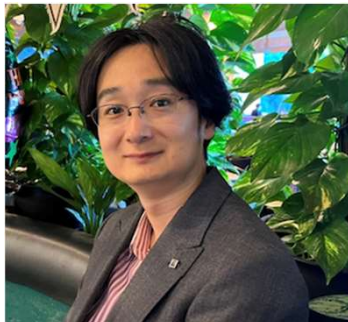


# 生体内刺激応答性高分子の開発とがん創薬への展開

## ① 共同研究・産学連携への意気込み



准教授  
武元 宏泰

がんと正常組織とは化学環境が異なります。その差異を利用して、がん集積・浸透性に優れる薬剤設計へと挑戦しています。新しい機能性構造の開発や搭載する薬物、我々の材料の使用等、良い連携が出来ればと思っています。

## ② 想定される連携先・移転先

高分子に基づくがん創薬に興味のある研究者・企業。  
薬物のがん集積量を向上させたい研究者・企業。

### キーワード

がん創薬、バイオマテリアル、高分子、薬物送達システム (DDS)

### 研究内容

高分子は複数の化学構造を導入可能なため、複数の機能性素子を1つの高分子に搭載することで、薬物のスマートキャリアの構築を目指しています。そのような高分子の例として、固形がん (pH 6.5) と正常組織 (pH 7.4) とのpHの違いを鋭敏に認識する化学構造を独自に見出すことに成功し、がん創薬への応用を目指しています。

